学会等助成 報告

The 14th World Congress of The International Cleft Lip and Palate Foundation $CLEFT\ OSAKA2022$

 会
 長
 上
 見
 (形成外科学教室 教授)

 事務局長
 塗
 隆
 志
 (形成外科学教室 准教授)

この度、大阪医科薬科大学医師会様より助成をいただきました国際学会The 14th World Congress of The International Cleft Lip and Palate Foundation: CLEFT OSAKA2022 について報告させていただきます。

CLEFT OSAKA2022はInternational Cleft Lip and Palate Foundation(ICPF)が主催する 国際会議です。International Cleft Lip and Palate Foundationは世界規模で口唇口蓋裂のケア活動を強化することを目的に、1997年に京都で設立されました。本協会の会員は外科医に限らず、歯科矯正医、言語病理学者、遺伝学者、小児科医、麻酔科医、補綴医、そして患者および患者の家族にも会員資格があります。会員間で分野や組織、さらに国境の枠を超えて口唇口蓋裂の治療についての意見交換が出来ることを目的に開催されているのがWorld Cleft

Congress of the International Cleft Lip and Palate Foundationです。この大会の第1回は2001年にスイスのチューリッヒにて開催され、20あまりの国々から約500人のメンバーが参加しました。それ以降は年に一度世界各国で開催されてきました。第14回は2020年ロシアのセントペテルブルグにて、第15回は2021年韓国にて開催予定でしたが、いずれもコロナウイルスの世界的な蔓延により開催が断念され、2022年は3年ぶりに日本での開催となりました。

CLEFT OSAKA2022は大阪医科薬科大学形成外科学教室教授の上田晃一が会長を務め、大阪西梅田毎日新聞ビルにありますハートンホールにて、4月20日から22日の期間で開催されました。今回はコロナウイルス感染の影響を考慮して、現地とウェブを用いたハイブリット形式での

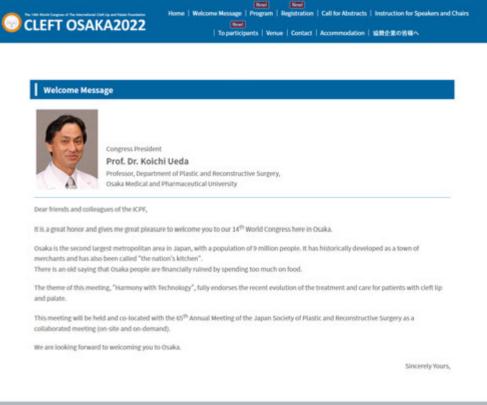


開催となりました。4月20日は2020年に亡く なられたICPF前会長でworld craniofacial foundation の創設者であるKenneth E Salvar 先生の追悼セレモニーを現地で行い、Webを介 して世界からMemorial lectureやメッセージ をいただきました。20日午後から21日にかけ ては Primary repair of unilateral cleft lip(片 側唇裂の治療)をはじめ、6つテーマのシンポジ ウムを現地で行い、日本のみならず、アメリカ、 アジアから現地および Webを介して口演および ディスカッションが行われました。22日はオンデ マンド形式で一般口演を配信しました。こちらに も世界各国から演題の登録をいただきました。 CLEFT OSAKA2022では一般口演の中にAward sessionを設け、臨床及び基礎研究の各分野で 優れた演題が選ばれました。今回はインドネシア

のDr. Jessica Halim、ベトナムのDr. Nguyen Minh Ducにそれぞれ賞が贈られました。

今会期中にはCLEFT OSAKA2022の会場に 隣接するザ・リッツカールトン大阪およびハービスホールにて第65回日本形成外科学会総会学 術集会(会長:上田晃一)を併催いたしました。 CLEFT OSAKA2022へ参加登録いただいた人 数は192名、第65回日本形成外科学会総会 学術集会は3278名と合計で約3500人の方 に登録をいただきました。

この度は大阪医科薬科大学医師会様より助成を得て、盛況のうちに会を終えることが出来ました。こころより感謝申し上げます。



CLEFT OSAKA2022ホームページより「Welcome Message」 (https://convention.jtbcom.co.jp/cleft2022/message/index.html)